

令和6年度 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
臨床研修医募集要項

1 プログラムの名称

プログラムの名称	定員
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター臨床研修病院群医師臨床研修プログラム	8名

2 研修プログラムの概要

別添のとおり

3 募集及び採用の方法

1) 応募資格

令和6年第118回医師国家試験受験予定者

2) 応募書類及び応募方法

応募受付期間内に、下記①～④の所定の応募書類を、『臨床研修医応募書類』と朱筆の上、簡易書留にて送付してください。確認後、こちらから案内を送付いたします。

※ ③成績証明書の発行などが間に合わない場合は、①、②、④の応募書類を上記と同様に送付してください。その場合、ご連絡いただければ、③成績証明書の郵送は、後日になっても結構です。後日、郵送いただく際も、『臨床研修医応募書類』と朱筆の上、簡易書留にて送付してください。

① 受験申込書（写真貼付）

② 履歴書

③ 成績証明書

④ 返信用封筒（84円切手貼付・返信先住所氏名を記入。長形3号12×23.5cm）1通

3) 採用方法

採用試験受験者の中から医師臨床研修マッチングシステムにより決定します。

4) 採用試験

① 試験の内容

- a. 筆記試験
- b. 面接試験

② 試験実施日時（以下の2回の内、1回のみ受験可能）

- a. 第1回 令和5年8月22日（火）

集合時刻 : 9時00分

集合場所 : 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター内

- b. 第2回 令和5年8月29日（火）

集合時刻 : 9時00分 または 13時00分

集合場所 : 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター内

5) 応募受付期間

- ① 募集受付開始 令和5年7月10日（月）

- ② 募集締切 令和5年8月10日（木） 必着

4 研修の開始時期

令和6年4月1日

5 処遇等

別添のとおり

6 問い合わせ先・書類送付先

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
病院管理部管理課庶務係 臨床研修担当 笠井 裕司
所在地 : 〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
Tel : 052-991-8121 Fax : 052-916-2038
E-mail : a9918121@sec.nagoya-cu.ac.jp

- 1 臨床研修医の身分
公立大学法人名古屋市立大学契約職員とする。
- 2 給与
基本給／月額 400,000 円
その他通勤費用を支給。期末手当なし。
- 3 勤務時間
原則、午前 8 時 45 分から午後 5 時 15 分までの間において 7 時間 30 分(休憩 60 分)とする。
平日の夜勤は月 2～3 回を予定。土日祝日の日勤は月 1～2 回、夜勤は月 1～2 回を予定。
- 4 休暇
年次休暇は 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までの間を通じて 20 日付与。
別途、夏期休暇、慶弔休暇などあり。
- 5 臨床研修医の宿舍
なし。
- 6 病院内の臨床研修医室
インターネットが利用できる環境 (Medline 等の文献データベース、教育用コンテンツ等を利用可能) が整備された研修室あり。
- 7 社会保険・労働保険
公立学校共済組合及び厚生年金保険に加入。労働者災害補償保険法の適用あり。
雇用保険に加入。
- 8 健康管理事項
健康診断、年 2 回実施。抗体価検査、ワクチン接種実施。
- 9 医師賠償責任保険
病院において加入。ただし、院外研修時は、必要に応じて個人加入。
- 10 外部での研修活動
学会、研究会等への参加は可。参加費用の支給は、一定の範囲内で可能。
- 11 院内保育所
完備。(週に 2 回の夜間保育あり。)
- 12 アルバイトの禁止
医師法第 16 条の 5 の規定により、臨床研修医には研修に専念する義務が課せられている
ので、研修期間中はアルバイトを禁止する。

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 臨床研修病院群医師臨床研修プログラム

プログラムの特色

- 1 名古屋市立大学病院医学部附属西部医療センター(以下「西部医療センター」という。)は病診連携を基礎にした地域の中核病院であり、日常診療でよく遭遇する疾患をはじめ、急性期小児周産期医療を研修できる。
- 2 西部医療センターは総合病院として各科の専門医が充実しており、ローテート各科で専門医から指導を受けることができる。
- 3 西部医療センターの各科は関連学会の指定教育施設の認定を多く有し、将来専門医を取得するために必要な研修ができる。
- 4 成人救急医療に関しては年間 8,000 台を超える救急車の受入実績のある東部医療センターにおいて、緊急を要する病態や疾病、外傷に適切に対応できる救急医療の基本的な診療能力と、1次、2次、3次救急医療の区別を理解し、上級専門医・指導医へのコンサルテーション、より高次の医療の必要性の判断と実践の指導を受けることができる。
- 5 選択科目の研修期間を充実させており、西部・東部医療センターと高度先端医療を担う名古屋市立大学病院との連携を強化した臨床研修病院群の中から、各研修医が将来のキャリアを見据えた研修診療科の選択が可能である。

研修計画

- 1 研修期間は2年間であり、4月1日より開始する。
- 2 研修方式は当院臨床研修プログラムに基づいて行う。
 - (1)オリエンテーションプログラム
臨床研修を開始するにあたり、実践的なオリエンテーションプログラムを2週間行う。実際の診療を開始する上で全ての研修医に共通して必要な研修項目として、医療安全管理、院内感染予防、保険診療のしくみ、チーム医療の意義、院内使用薬品と処方、臨床検査オーダー手順、患者の栄養管理、地域医療、接遇などを研修する。
 - (2)計画の作成
各研修医の要望を加味し、プログラム責任者と研修医の間で調整し、オリエンテーション期間中に時間割と研修医配置表を編成する。
 - (3)ローテート研修
以下のローテート研修を行う。
 - ① 1年目研修—必修科
内科24週間(総合内科2週間、呼吸器内科4週間、消化器内科4週間、循環器内科4週間、脳神経内科2週間)を必修とし、残り8週間を内分泌・糖尿病内科4週間、血液・腫瘍内科/リウマチ・膠原病内科4週間、腎臓・透析内科4週間の3科から2科を選択する)
外科4週間、小児科4週間、産婦人科4週間、麻酔科4週間、外科系4週間、救急部門12週間(西部医療センター救急部門4週間及び東部医療センター救急科4週間を必修とし、救急部門4週間又は東部医療センター心臓血管センター・脳血管センター4週間〈循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科・脳神経内科から2科を選択、各2週間研修する。〉のいずれかを選択する。外科系研修として、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科のうち1科又は2科選択し4週間必修とする。

1年目より次項に記述してある選択科より選択することも可能。

1年目(1タームを4週間とする。)

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
研修科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	外科	小児科	産婦人科	麻酔科	救急	救急	救急	外科系

(13・14タームは2年次に履修)

② 2年目研修—必修科及び選択科

必修科—地域医療4週間、精神科4週間

地域医療は、愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院、国民健康保険上矢作病院、医療法人開生会かいせい病院、医療法人輝山会記念病院、新城市作手診療所、知多厚生病院附属篠島診療所、日間賀島診療所、にて4週間研修する

精神科は、名古屋市立大学病院にて研修する。

選択科—40 週間

必修科の他、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科及び東部医療センター、名古屋市立大学病院の各診療科より幅広く選択する。

または、志望する科及び関連する科を中心に選択ローテートする。

(希望により同一科を複数単位研修することも可能)

ただし、西部医療センターでの研修期間が52週以上になるようにする。

2年目(1タームを4週間とする)

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
研修科	地域医療	精神科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科	選択科

③ 並行研修

研修期間を通して4週間の一般外来研修を、他の診療分野の研修と同時に行う。内科、小児科、外科、地域医療で併せて4週間(20日分)行う。

各分野の研修日数の目安

- ・内科(総合内科以外の22週) $0.5 \text{ 日} \times \text{週} 1 \text{ 回} \times 10 \text{ 週} = 5 \text{ 日}$
- ・総合内科 $0.5 \text{ 日} \times \text{週} 3 \text{ 回} \times 2 \text{ 週} = 3 \text{ 日}$
- ・外科 $0.5 \text{ 日} \times \text{週} 3 \text{ 回} \times 4 \text{ 週} = 6 \text{ 日}$
- ・小児科 $0.5 \text{ 日} \times \text{週} 2 \text{ 回} \times 4 \text{ 週} = 4 \text{ 日}$
- ・地域医療 $0.5 \text{ 日} \times \text{週} 2 \text{ 回} \times 4 \text{ 週} = 4 \text{ 日}$

なお、ローテート研修内で、予防接種等を含む予防医療、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の研修を実施する。

(4) 救急診療

プライマリ・ケア習得の最優先業務として位置付けており、1年次・2年次を通して、日常よく遭遇する疾患については自力で対処できる基本的な知識と技術を養う。時間内の救急患者は救急部門のローテート時、および、各科ローテート時に、担当医(救急担当医、主治医)の指導のもとで、研修する。

※当直については、現在勤務化を検討中。

(5) その他教育に関する行事

ローテートする各科の症例検討会、抄読会、カンファランスなどに積極的に参加する。その他、医局会主催による各科のレクチャー、病院全職員を対象とした全体研修、教育講演会、各種委員会勉強会等に参加する。

(6) 病理解剖・CPC

病理解剖には参加できる全ての研修医が立ち会う。定期的に行われるCPCに出席し、症例検討に参加する。